

6・3 貨物の安全な積み付けおよび運送

6・3・1 危険物の運送

国際航海における危険品の海上輸送は、固体ばら積み貨物については国際海上固体ばら積み貨物規則(IMSBCコード)、個品危険物(コンテナ)については国際海上危険物規程(IMDGコード)、液体ばら積み貨物については危険化学品のばら積運送のための船舶の構造および設備に関する国際規則(IBCコード)に詳細な要件が規定されており、国際海事機関(IMO)貨物運送小委員会(CCC)と汚染防止・対応小委員会(PPR)において、定期的な見直しが行われている。

1. IMDGコード(国際海上危険物規定)改正

同コードは、危険物運送の実態等に対応して2年毎に改正が行われている。

次回第38回改正は平成30(2018)年1月1日に発効予定であるが、国内法である危険物船舶輸送及び貯蔵規則(危規則)の改正は、IMO推奨のとおりコード発効の1年前、平成29(2017)年1月に施行された。

2. IMSBCコード(国際海上固体ばら積み貨物規則)改正

IMSBCコードは平成23(2011)年1月1日に強制化された。IMDGコードと同様、2年毎に改正が行われ、最新版は平成29(2017)年1月に発効した。コード未採用の貨物の固体ばら積み貨物に掛かる詳細要件についての提案が各国からIMOに提出されており、CCCおよび海上安全委員会(MSC)において審議、採択されている。

ボーキサイト及び石炭の液状化危険性及び安全要件について、詳細な技術的事項を検討することが必要とされたため、昨年度のCCC2で我が国をコーディネーターとする通信部会(CG)が設置され、具体的な検討を行った。平成28(2016)年9月のCCC3において、CGの報告に基づき、個別スケジュールの液状化に係る規定を改正するとともに、石炭のための新たな運送許容水分値決定法をIMSBCコードに追加することに合意した。また、ボーキサイトの液状化とシードケーキに係る基準の見直しに関する、CGが新たに設置された。

6・3・2 コンテナの損失防止策に係る SOLAS 条約改正(コンテナ総重量確定制度)

(1) 背景・経緯

平成27(2015)年6月のMSC95において、海上コンテナ総重量の誤申告が原因とされるコンテナ損失事故の防止策として、船積み前のコンテナ実重量の確実な証明行為が行われるよう海上人命安全条約(SOLAS条約)の改正が採択され、平成28(2016)年7月1日に発効した。

(2) わが国のコンテナ総重量確定制度

上記の改正 SOLAS 発効を受け、船舶安全関係省令改正、告示、実施ガイドライン制定等の法整備がなされた。現状我が国のコンテナターミナル、荷主、船社においては、本改正による特段大きな混乱は生じていない。今後IMOガイドラインにおいて確定コンテナ重量情報伝達のEDI化が盛り込まれる可能性もあり、国交省海事局では来年度から諸外国を含むコンテナ情報伝達の課題調査・検討を実施する予定である。

6・3・3 ISO/TC104(貨物コンテナ)に関する対応

1. ISO/TC104(貨物コンテナ)の概要

国際標準化機構(ISO)の中で 104 番目に設置された専門委員会(TC)である TC104 は 25 カ国の正式加盟国(P メンバー:業務に積極的に参画し、規格投票に対する債務および可能な限り会議に参加するメンバー)および 26 カ国のオブザーバー加盟国(O メンバー:オブザーバーとして業務に参画するメンバーであり、意見提出、会議出席の権利を有する)にて構成され、貨物コンテナ、特に海上コンテナに関する標準化について審議している。傘下に 3 つの小委員会(SC)および 8 つのワーキンググループ(WG)が置かれている。

当協会は、日本工業標準調査会(JISC:Japanese Industrial Standards Committee)の承認の下、TC104 の国内審議委員会「ISO コンテナ委員会」の事務局を務めている。

ISO/TC104“貨物コンテナ”	(ANSI(米国規格協会))
WG8“メカニカルシール”	(ANSI)
SC1“一般コンテナ”	(AFNOR(フランス規格協会))
WG1“一般貨物コンテナ”	(AFNOR)
WG2“取扱いおよび固縛”	(DS(デンマーク規格協会))
SC2“特殊コンテナ”	(BSI(英国規格協会))
WG1“冷凍コンテナ”	(BSI)
WG4“タンクコンテナ”	(BSI)
WG6“プラットフォームコンテナ”	(SAC(中国標準化機関))
SC4“識別および通信”	(DIN(ドイツ規格協会))
WG1“コード、識別および表示方法”	(未定)
WG2“コンテナおよび付属品に関する AEI”	(ANSI)
WG3“通信および用語”	(AFNOR)

()内は事務局

2. ISO/TC104 の活動状況

ISO/TC104 は、平成 29(2017)年 3 月、フランス・パリにおいて 3 年ぶりに委員会を開催し、各小委員会の活動を確認するとともに、WG8 の廃止に合意した。

＜開発・改訂中の規格＞

SC1	ISO/TR 15070 構造上の試験基準に関する理論解説
	ISO/DIS 3874 コンテナの取扱いおよび固縛
	ISO/DIS 668 3 訂版 コンテナの取扱いおよび固縛
SC2	ISO/CD 1496-2 冷温コンテナの仕様および試験
	ISO/AWI 1496-3 タンクコンテナの仕様および試験
	ISO/CD 1496-5 プラットフォームコンテナの仕様および試験
	ISO/AWI 20854 可燃性冷媒を使用した冷凍システムの安全対策
SC4	ISO/AWI 6346 1 訂版 コンテナの符号、識別および表示
	ISO/DTS 18625 追跡および監視システムの要件